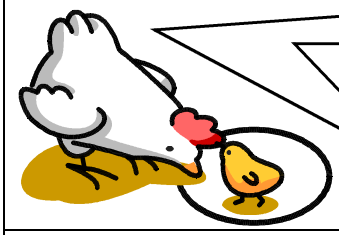
令和３．２．１８

八戸市立新井田小学校
同　父母と教師の会

☎２５－５１２５
☎２５－３１５０

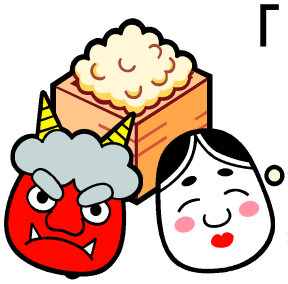


啐 啄

N0.739

「ゆずり葉」の心

校　長　峯　　明　紀



早いもので、令和２年度終了まで一カ月余りとなりました。本校では、年度末の教育活動のまとめに備え、コロナウイルス感染予防強化やインフルエンザ流行防止のために、これまで以上に、換気やうがい手洗いの徹底、マスクの着用の徹底に努めています。また、当面の間たて割りでの活動も控えながら活動を進めているところです。保護者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

さて、保護者の皆様も記憶にあるかも知れませんが、以前の国語の教科書に「ゆずり葉」という詩が掲載されており、ちょうどこの時期に６年生が小学校最後の詩の学習をしていました。まずは、全文を紹介したいと思います。

ゆ ず り 葉

河井 醉茗

子供たちよ
これはゆずり葉の木です
このゆずり葉は
新しい葉が出来ると
入り代わって古い葉が落ちてしまうのです
こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって
子供たちよ
お前たちは何をほしがらないでも
すべてのものがお前たちにゆずられるのです
太陽のめぐるかぎり
ゆずられるものは絶えません
かがやける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです
読みきれないほどの書物も
幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれど
世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを
一生懸命に造っています
今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりでにいのちは延びる
鳥のようにうたい花のように笑っている間に
気が付いてきます
そしたら子供たちよ
もう一度ゆずり葉の木の下に立って
ゆずり葉を見るときが来るでしょう

この木の特徴は「古い葉と新しい葉とが交代する」ことです。冬の間中、寒さにじっと耐えて枝に付いているのですが、暖かくなった春が巡ってくると、葉がぽろりと落ちるのです。そして、その落ちた葉の後には、次に出てくる若芽がちゃんと育っているのです。この古い葉は、冬の寒さから若芽を守って自分の役割を終えて去っていくのです。その姿が自分の命を次にゆずっていく「ゆずり葉」と名付けられたのです。

６年生にとっては、まさにたて割り班活動や委員会、クラブ活動など、これまで全校のために中心になって活動してきたものを、次の若芽である５年生に引き継ぐ「ゆずり葉」となっていることでしょう。また、保護者の皆様も、「ゆずり葉の心」で常に子どもたちを温かく見守ってくださっていることと思います。２月２５日（木）には、今年度最後の参観日をが行われます。子どもたちの一年間の成長を温かく見守っていただければ幸いです。

私自身も後輩の教職員に「ゆずり葉の心」をゆずっていく時期が近付いてきたことをひしひしと感じる今日この頃です。

《ゆずり葉》

「啐啄」（そったく）：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音。
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。

にいだのたより